

CVID（完全な、検証可能な、不可逆的な、非核化）は不可能

漢和防務評論 20180908(抄訳)

阿部信行

(訳者コメント)

米朝サミットの後の記者会見で、トランプ大統領は、北朝鮮の非核化に要する経費は、日本と韓国に出させる、米国は出さない、と述べたようですが、日本のメディアは報道していません。

そもそも漢和防務評論誌は、北朝鮮の非核化は不可能である、と述べています。その理由についてこの記事では説明しています。

北朝鮮を巡っては、中国情勢もあり、今後、何が起こってもおかしくない状況が出現する可能性があります。

ここは安倍首相でないと対処できない時代が続くのではないかと思います。国民の一致結束した対応が求められる時代であると思います。

平可夫

米朝サミットが実現した。会談後、トランプ大統領は、米国の非核化の目標は CVID

(COMPLETE, VERIFIABLE, IRREVERSIBLE, DENUCLEARIZATION, 完全な、検証可能な、不可逆的な、非核化) でなければならない、と何度も強調した。本記事は、結論から先に述べる：軍事技術的、政治的に見て、不可能である、と。時間の浪費である、と。

なぜか？第一、なぜ 70 年も経ってから米朝サミットが実現したのか？しかも去年までは実現不可能であったではないか。その理由は、金正恩が、米国の国家安全に対し、現実的脅威を与える実戦用核兵器である核弾頭と ICBM を手にし、米国は交渉せざるを得なくなったからである。トランプ大統領が直面する局面は、過去の如何なる米国大統領も経験したことがなかった。ICBM がなければ、トランプ大統領は金正恩と対等に交渉したのだろうか？これは金日成、金正日の宿願だったのである。核兵器と ICBM のない北朝鮮ならば、3000 名に及ぶ外国記者が集まるはずがない。米国とベトナム、米国とキューバのサミットにはどの程度の数の記者が来たと思うか？

軍事的に見て、老朽化した通常兵器では北朝鮮の将来の国家安全を保障することができるだろうか？

トランプ後の米国政府は、北朝鮮の安全を保証してくれるだろうか？

イランとの核協議はトランプによって承認を取り消された。当時カダフィーも核を破棄し、米国もリビアの国家安全を保証した。

核兵器を持たなければ、金家の兄妹政権は、何時まで生き延びられるであろうか？核兵器があれば、誰が政変を企むであろう？また第三者が敢えて政変を支持するであろうか？これが、金家が 70 年にわたり、あらゆる犠牲を払って核兵器、弾道ミサイルを開発してきた理由である。

現在、米朝サミットが一定の成果を得たように見える。KDR は現在：金正恩が経済状況を改善しようと決心し、今後の経済建設に熱心になっていることは疑っていない。北朝鮮は ICBM と核弾頭の開発が完了したことによって、一つの戦略目標を達成した。しかし将来の戦略目標を達成するためには、一定程度の回り道も必要である。したがって核試験場を破壊する姿勢を見せたり、ロケットを発射実験台から下ろしたりした。トランプは米朝サミット後の記者会見で：次の具体的行動は直ちに行われるであろう。金正恩はミサイルのエンジン試験台の破壊を承諾した、と述べた。

現在見たところ、これは、”非核化” に対して何の意味もなさない。

核試験場の破壊は予想されたことである。核弾頭は、もはやテストを必要としない。すでに実戦化の段階にあり、6 回実験を行っているので十分である。インド、パキスタンも実験は 6 回であった。

ミサイルのエンジン試験台の破壊。この試験台は過去に暴露されている。当時エンジンの焼損試験を行っていた。また有るときはエンジンの点火実験を行っていた。同型エンジンは、HS-14 或いは HS-15 のエンジンの可能性が高い。このエンジンの試験台の破棄を承諾することは現実的な意義が有る。すなわち北朝鮮は、もはや今後長距離 ICBM の開発ができなくなるという意味である。

周知のとおり、現在の HS-14/HS-15 は液体ロケットである。閲兵式で、北朝鮮は、固体燃料 3 段式 ICBM 及び少なくとも一種類の固体燃料の中距離ロケットを展示した。これらのロケットのエンジンは未だ公開されていない。KDR は、これらの固体燃料ロケットエンジンは試験を終了したとは考えていない。このことは、北朝鮮が固体燃料ロケットエンジンのさらなる開発を放棄したことを意味するのか？ ICBM 開発を HS-15 の段階で保留しているのか？

日米の非核化の要求は、短距離弾道ミサイルを含む、すべての弾道ミサイルの放棄を要求している。実行可能であろうか？

KDR の疑問は次の通り：非核化の問題と同様に、北朝鮮はすでに多くの弾道ミサイル、ICBM、固体、液体ロケットエンジン開発技術者を保有し、ICBM の材料の大部分は国産化できている。一部の材料は国際市場で購入することが容易である。したがって現有の ICBM を完全に破棄したとしても、再び設計し、生産することは困難ではない。

米ソの核軍縮の経緯から見ると、ソ連、ロシアは、削減した SS-18 等の ICBM を民用ロケットに転用して発射することができた。

したがって北朝鮮は、今後類似の要求をし、HS-14/HS-15 を民用ロケットとして使うであろう。

また ICBM 工場を完全に破壊することは困難である。北朝鮮は、引き続き同工場を民用ロケット生産に使用したいと主張するであろう。ウクライナの南方機械工場の場合は、SS-18 型 ICBM の生産を放棄したあと、民用の名を借りて、依然として軍用ロケットの改良を行っている。言い換えれば、北朝鮮の弾道ミサイル生産の潜在力は依然として存在したままとなる。

再び CVID の問題を論ずると：最初の C について：完全とは如何に定義される

か？北朝鮮にはどのくらいの数の ICBM、MRBM があるか？核弾頭の数は？威力は？どこに貯蔵しているか？いずれも公表されてはいない。米国の偵察衛星は、概略の配備位置、貯蔵している可能性がある場所を探知しているだけである。完全に掌握することは不可能である。山岳の多い北朝鮮は、1960年代から全土の要塞化を開始した。

”小中華思想”とも言える北朝鮮の政治哲学は次のとおりである：敵国、相手国を騙す、軍隊も騙すのを厭わない。これはずる賢いやり方である。この哲学が生きている北朝鮮や中国のような国家は不誠実である。北朝鮮労働党は”強盛大国”の概念を提議しており、北朝鮮の野心は大国指向である。自らを”大国”と認定し、これが核兵器、ICBMを開発する思想の根源である。将来にわたって変わることはない。したがって、たとえ”非核化”を開始したとしても、核兵器工場、ミサイル生産工場、遠心分離機、ウラン精錬工場を全て掌握することは不可能である。Cの意味は変えざるを得なくなる？

2番目のVは、實際上Cと密接な関係がある。基本的な情報が不正確であれば、”非核化”の作業を確認するすべがない。その時点で、当時サダムフセインの化学兵器を査察した時のような問題が必ず出てくる。米国が核施設、弾道ミサイル施設であると認めても、北朝鮮は査察を拒否し、主権侵害であると主張するであろう。この問題は際限なく発生する。また誰が確認するのか？国連事務総長はすでに国連が担当したいと表明した。このことは、核査察に米国、韓国、中国、ロシア、欧州、あるいは日本の専門家（もし日本が資金を出せばの話）が参加することを意味する。KDRの予測では：核査察の方式、方法、進捗、基準、やり方に関し、米中ロの間で大きな意見の相違が出現するであろう。中ロは明らかに北朝鮮の意見を尊重する。状況は、リビア、イラクを査察した時よりもはるかに複雑になる。誰の情報を採用するのか？もし米国が自己の情報が正確だと主張し、北朝鮮が申告しない地区に核、ミサイル工場が存在すると認定した場合、また中ロの情報が正しくないと認定した場合、いかに解決するのか？

3番目のIは、不可逆的の意味である。KDRがすでに説明した通り、核兵器生産の材料、膨大な科学者が存在し続ければ、再度核兵器、ミサイルを生産することは可能である。一旦軍用のウラン、或いはプルトニウムを保有してしまうと、日本や台湾のような国家は1年以内に核兵器を製造できる。当時ルーマニアのような中進国も核兵器製造を考えていた。真に技術上の”不可逆的”概念とは：米国の対日本、台湾に対する核政策のように、核兵器生産の材料の入手先を完全に遮断することである。核技術、ミサイル技術を有するすべての技術者、設計者たちを完全に北朝鮮から分離することは可能であろうか？

北朝鮮の交渉の真の動機は極めて明白である：第一段階では、”非核化の硬い決意を表明”する。これは”餌”としては小さいが、米国等、大国は交渉のテー

ブルに着かざるを得ない。第一、現段階で、もはや必要でない一部の核施設、弾道ミサイル施設を破棄したのは、中国の禁輸措置を緩めさせるためである。第一段階の”非核化”は順調のはずである。必要のない核施設、ミサイル試験施設だから。続く第2段階は、核兵器、弾道ミサイルの数と種類の申告である。そうしなければ”非核化”はできない。当時の米ソ間の戦略核兵器制限交渉、戦略核兵器削減交渉に似ている。KDRは、米朝の口論はこの時点から開始されると考えている。米国は北朝鮮を誠実でないと口撃するが、北朝鮮は誠実にはなれないのである。この段階の交渉は、少なくとも数年から10年は掛かる。或いはさらにかかる。

第3段階は、当然核工場、鉱山、ミサイル陣地の場所の申告である。この段階は激烈な争いになる。数十年は掛かるであろう。これが、北朝鮮の言う：”段階的非核化”の意味である。それぞれの段階で、北朝鮮は米国に対し高額の経済援助を要求するであろう。経済援助が受けられなくなった場合、どうなるか。これは当初からの大きな問題である。第2、第3段階の”非核化”の過程では誰が資金を出すのか？トランプは、米朝サミットにおいて、米韓聯合軍事演習は極めて金が掛かる、米国が金を出さねばならない、と話し、またNATOの出資問題等々についても言及した。韓国との聯合軍事演習は止めたい、と。さらに記者に対して明確に述べた：北朝鮮の非核化は、韓国と日本が金を出す。米国は出さない、と。この話は極めて重要である。これは、本記事で議論すべき、新たな核心となるべき問題である。最後に議論するので注目して欲しい。

この段階から経済支援の問題が出てくる。軽水炉建設問題は、必ず議題に上るはずである。1995年当時の価格は5億ドルであった。各段階の執行が開始される度に、北朝鮮は国連の禁輸措置解除を要求してくるであろう。そうしないと次の段階の”非核化”は執行しない、と。この問題は、最終的に終わりのない言い争いになるであろう。

また、北朝鮮の武器類はすでに老朽化している。北朝鮮の通常兵器は、根本的に戦争抑止力にはなりえない。したがって第2段階以降の”非核化”の過程で、北朝鮮は、米国、ロシアに、核兵器に代わる先進型通常兵器の提供を求めらるであろう。これには先例がある。1970年代のエジプトは、ソ連の武器システムから離脱し、キャンプ・デービッドにおいて米国が装備を無償提供する協議書に署名した。北朝鮮に対して、米国は承認するであろうか？

したがって、北朝鮮の真の目的は、自らの核兵器を最終的に印度化、パキスタン化することであり、核大国としての各種の国際義務を受け入れ、最終的に国際的な核保有の承認を得ることにある。

現在議論すべき別の核心的問題とは何か？トランプは記者会見で明確に表明した：日本と韓国は、北朝鮮の”非核化”の経費を出さねばならない。米国は出さない、と。

今回の米朝サミットの内情をKDRは推測したいと思う。これは国際的な冗談話であろう。米国は財布は持たず、日韓に”非核化”の経費を支払わせる？という。韓国には、同情すべき事情がある。統一問題に関して、将来一つの条件と

なり得るからだ。しかしなぜ日本が支払う必要があるのか？トランプは、シンガポール政府が提供したワーキングディナーを只でどのくらい食べたと思うのか？

非核化問題に関し、真剣でないのは誰か？それは米国である。

KDR は、トランプの記者会見を全て傾聴した。2 番目の推測は：彼は気違いを装っているか、本当の気違いであろう。彼は非常に聡明でユーモアがあり、人心掌握能力が高い。彼は、我々のカナダに対し、或いは G7 に対し無礼なことをしたが、金正恩を賞賛した。彼は、数字や金勘定には詳しく、金銭には細かい。彼は、北朝鮮の”非核化”にどのくらい金が掛かるかをよく知っている。したがって気違いを装っている。一方表面的には、気違いのように見えるが、實際上、彼が気違いを装うことは、詳細に考察すると、米国の国家利益に符合している。しかし時には、あまりにもひどいので、米国人の道徳に対する印象を損なっている。

日韓に支払わせると？この話をする前に、彼は、日韓の指導者と相談したのだろうか？**KDR** は絶対になかったと思う。

以上